



国道220号 「古江バイパス」3.9kmが開通

古江坂を回避するバイパスが3月30日部分開通

国道220号古江バイパスは、鹿屋市白水町から垂水市新城間の交通混雑の緩和と交通安全の確保を目的とした延長約7.5kmの道路です。
平成元年度に事業に着手し、平成4年度に用地着手、平成13年度から工事着手しており、今回、鹿屋市花岡町から垂水市新城間の延長3.9kmが部分開通しました。

3月30日、国土交通省大隅河川国道事務所が、鹿屋市花岡町と垂水市新城間の国道220号で平成13年度から工事に着手し進めてきた「古江バイパス」の一部が完成し、花岡町の現場で開通式が行われました。

当日は、鹿屋体育大学で国土交通省関係者や県選出国會議員、地元関係者など約150人が出席して、開通式典が行われました。

山下市長は、「今回の開通は、交通の利便性の向上など、その効果は大きい」と述べるとともに、「子どもたちの通学や地域住民の安全確保のために、バイパスの残り区間の早期開通を強く訴えました。」

式典後、鹿屋体育大学から花岡町の古江バイパスに場所を移して、国、県などの関係者によるテープカットや花岡中学校の生徒たちによるくす玉割りが行われたあと、通り初めが行われました。

国道220号の古江坂(通称)は、急こう配で急カーブが連続するために、走行



▲「古江バイパス」の部分開通を祝って、テープカットやくす玉割りのあと、通り初めがあり、午後5時から一般開放されました。



▲鹿屋体育大学で行われた式典では、万歳三唱をして、古江バイパスの部分開通を祝いました。

性が悪く事故も多い状況でしたが、今回の供用により、古江坂での事故の危険度が低下し、ドライバーや同乗者へのストレス軽減が期待されています。
また、3月20日には、鹿屋市黒神と垂水市牛根麓を結ぶ「牛根大橋」が開通しました。
これまで垂水市牛根麓付近一帯の国道220号は、大雨時にかけ崩れの危険があり、連続雨量が150ミリを超えると通行止めの規制がかかっていましたが、今回、牛根大橋を含む2.7km区間の国道が完成したことで、牛根麓地区の事前通行規制が解除され、日常生活、産業、医療活動への支障が解消されることとなります。



▲開通を祝ってテープカットをする山下市長(左から2人目)



▲くす玉割りを終え、笑顔を見せる花岡中学校の生徒たち



▲開通式を祝いに地元からも多くの人が集まりました。



▲パトカーの先導で、車約50台が通り初めを行いました。

